

チャレンジを後押しするシェアキッチンを

サニーサイド・関園芸 関なをみさん

この11月にシェアキッチン「サニーサイドラボ」を開設する、関なをみさん。デザイナーだった夫との結婚を機に果樹農家を継ぎ、ジャムの販売、マルシェ※の実施と活動の幅を広げてきました。

※手作りの食料品や野菜、花、雑貨などを持ち寄り販売する場。マーケット。

自家用から始まったジャム製造

夫の実家である関園芸は、年間約10種類の果樹を育てる農家で、対面販売や卸の他、市内の学校給食でも使っていたといいます。私は、結婚までは臨床検査技師として病院で働いていて、農家の仕事に馴染みはなかったのですが、人と植物という違いはあれ、生き物相手という点で近いかもしれません。

ジャムを作り始めたのは自家用が始まりです。傷ついて出荷できない果物を加工していたところ、義母から「販売してみたら？」という提案があったのです。そこで工房を作って、ジャムの製造販売を始め、今は年間15種類くらい作っています。



清瀬にもマルシェを

ジャムは、まずJAみらい清瀬新鮮館に置いていただき、農園前でも販売を始めました。当時は、都心で開かれるマルシェにも出店したんですよ。ただ、子どもが生まれると、都心まで出るのが辛くなってしまっ……。

そこで近隣市にはマルシェがあると知り、清瀬でもできないかと考えるようになったのです。勉強を兼ね、いろんなマルシェに出店するなかで、構想に共感してくださる方と出会い、開催に向け人の輪が広がっていききました。

2018年から4回開いた「サニーサイドマルシェ」では、飲食店やハンドメイド作家さんに出店いただき、畑でのスタンプラリーや収穫体験など農業を身近に感じてもらう企画もしました。出店者から「マルシェがきっかけでお客様が増えた」と聞き、うれしいです。

一緒に使えるシェアキッチン

マルシェを主催して知ったのが、飲食で起業したい方が、調理する場所に苦労しているということでした。出店者とやり取りを続けるうちに「一緒に使えるシェアキッチンを作れないか」というアイデアが頭に浮かぶようになりました。背中を押してくださる方もいて、事業計画書を作り、融資を受け、家族の理解の上で始められることになりました。

開設するシェアキッチン「サニーサイドラボ」は、「日常の延長」とちょっといいものがテーマです。シェアスペースとして教室などに

も使っていただけです。当初は利用者による日替わりカフェや教室を考えていたのですが、新型コロナの影響で、当面はテイクアウトの委託販売を中心にする予定です。数店舗のパンやお菓子、野菜を置かせてもらう、いわばセレクトショップとして、小さい子もお年寄りも気軽に入れるような場にしたいですね。

運営は臨機応変にするつもりです。例えば、育児などの理由で、自由に動ける時間が限られる方もいると思います。料金体系は月極ではなく時間ごとにするなど、使いやすくしたいです。

まずは軌道に乗せて

私自身、仕事を辞めて清瀬に来て、家族以外と話す機会がなくなり、落ち込んだ時期がありました。楽しく過ごせる方法を考えてマルシェをやったようなところがあります。私が楽しめることが他の人の楽しみにもなったら、シェアキッチンもそんな気持ちです。

この先に目指すのは、まずはシェアキッチンで軌道に乗せることです。ゆくゆくは、利用者が独立し、願わくは、市内にお店を持つてくれたらと夢見ています。

(近藤)



オープン予定のサニーサイドラボ



栗や柿、いちじくなど秋のジャムも販売

Facebook @sunnysidelabo
Instagram @sunnyside_labo